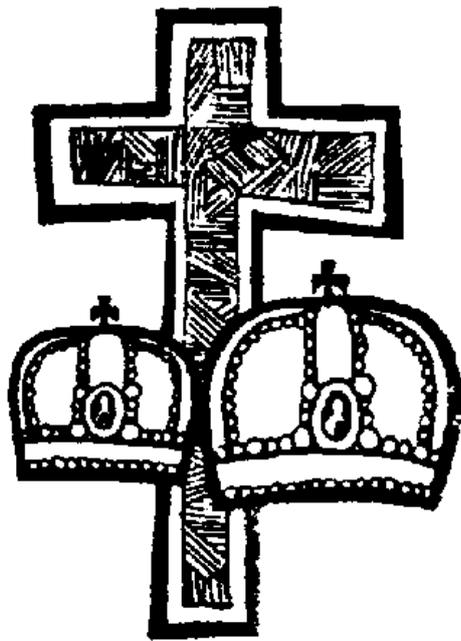


婚配式



2013年7月

名古屋ハリストス正教会

聘定式

聖体礼儀既に終る、司祭聖所の内に在り、聘定者聖門の前に立つ、男は右、女は左、聖宝座の右辺に彼等の二指環を置く、金一、銀一、銀は右に、金は左に、相近づけて之を置く、司祭三たび聖号を聘定者の首に畫し、火を點じたる蠟燭を彼等に予へ、之を導きて堂中に入れ、爐儀を十字形に行ふ、

輔祭 君や、祝讚せよ、

つねにさいわいをみちまたくいさぎよ
してかみをうみしははやなちはじつにほめ
らるべしヘルムの上にとおとまれ
光えいたぐいなくセラムにまさりみさおをやぶ
らずしてかみことばをうめりかみのじつの



司祭 我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、

詠隊 「アミン」

輔祭 我等安和にして主に祷らん、

詠隊 主憐めよ、

上より降る安和と我等が霊の救の為に主に祷らん、

全世界の安和、神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に祷らん、

此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に来る者の為に主に祷らん、

教会を司る尊貴なる我等の府主教 ((某))、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の為に主に祷らん、

我が天皇、及び国を司る者の為に主に祷らん、

今互に聘定せらるる神の僕 (某) と神の婢 (某) との為、及び彼等が救の為に主に祷らん、

彼等に子を賜ひて其族を継続せしめ、及び凡そ救に切要なる冀願を成就せしむるが為に主に祷らん、

彼等に完全にして和平なる愛と助とを下し賜はるが為に主に祷らん、

彼等が意の一なると信の堅きとに於て守らるるが為に主に祷らん、

彼等が?なき生活に祝福せらるるが為に主に祷らん、

主我等の神が、彼等に貴き婚配と汚なき牀を賜はるが為に主に祷らん、

我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが為に主に祷らん、

神や、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐み護れよ、

至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰、生神女永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

詠隊 主爾に

司祭 蓋凡そ光栄、尊貴、伏拝は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、

詠隊 アミン

【大連祷】



【ルーマニア語 大連祷】

1 2,7

ア ミン 主 あわれめよ 主 あわれめよ
 A min Doamne mi lu e - ste Doamne mi lu e - ste
 ドア・ムネ ル エ - シュテ

3,8 4,9 5,8

主 あわれめよ 主 あわれめよ 主 あわれめよ
 ドア・ムネ ル エ - シュテ ドア・ムネ ル エ - シュテ ドア・ムネ ル エ - シュテ
 Doamne mi lu e - ste Doamne mi lu e - ste Doamne mi lu e - ste

6,9

主 あわれめよ 主 なんじに ア ミン
 ドア・ムネ ル エ - シュテ ツィエドア - - ムネ
 Doamne mi lu e - ste Tie doam - - ne

司祭 高声を以て左の祝文を誦す、

永遠の神、離れたる者を一に合せて、彼等の為に愛の敗る可からざる結合を定め、イサクとリウェカとに祝福して、之を爾の許約を継ぐ者と顕しし主や、爾親ら此の爾の僕婢（某）と（某）ともにも祝福して、之を凡の善行に導き給へ、蓋爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光栄を爾父と子と聖神に獻ず、
 今も何時も世世に、

詠隊 「アミン」

司祭 衆人に平安、

詠隊 爾の神にも、

輔祭 爾等の首を主に屈めよ、

詠隊 主爾に、

司祭 主我等の神、異邦人を以て教会を建て、之を淨き童女として己に聘定せし者や、今の聘定に祝福し、此の爾の僕婢を合せて、之を和平と同心とに守り給へ、蓋凡そ光栄、尊貴、伏敗は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、

詠隊 「アミン」

【指輪の交換】

次ぎて司祭指環を取り、金の者を男に予へ、銀の者を女に予ふ、男に向ひて曰く、

神の僕（某）、神の婢（某）に聘定せらる、父と子と聖神の名に因りてなり、今も何時も世々に、「アミン」女に向ひて曰く、

神の婢（某）、神の僕（某）に聘定せらる、父と子と聖神の名に因りてなり、今も何時も世々に、「アミン」右誦すること各三次、誦する毎に、指環を以て、彼等の首に十字号を畫し、畢りて、指環を彼等の右の指に加ふ、次ぎて受託者は、新聘定者の指環を交換す、

輔祭 主に禱らん、

司祭、主我等の神、太祖アウラアムの僕、其主イサアクに配すべき妻を擇ばんが為に遣されし者にメソポタミヤに同行して、水を扱む徴を以てレウェカの聘定すべきを示しし者や、爾親ら、爾の僕婢、此の（某）及び此の（某）の聘定に祝福し、彼等が互の契約の詞を堅くし、彼等を爾に因る聖なる結合を以て固め給へ、蓋爾は、始に男と女とを造り、爾に因りて妻は夫に配偶せらる、之を助け、及び人類を継続せんが為なり、我等の神、眞実を爾の嗣業に遣し、及び爾の許約を爾の僕たる我等の父祖、世毎の爾の選ばれし者に賜ひし主や、爾親ら爾の僕（某）と爾の婢（某）とを顧みて、彼等の聘定を信と同意と眞実と愛とに固め給へ、蓋主や、爾は聘定の質を予ふるを以て、諸事を堅めんことを示せり、指環を以て、イオシフに、エギプトに於て権は予へられ、指環を以て、ダニイルはワフィロンの地に於て光榮を獲、指環を以て、ファマリの眞実は顕れ、指環を以て、天に在す我等の父は其の子に恩恵を彰し給へり、蓋言ふ、指環を其の右の手に加へ、肥えたる犢を宰りて、我等食ひ樂まんと、主や、爾の右の手は、親らモイセイを紅の海に於て堅固にせり、蓋爾が眞実の言にて、天は固められ、地は基けられたり、爾が諸僕の右の手も、爾が権能の言と爾が高き臂にて祝福せられん、故に主宰や、今も爾親ら天の祝福を以て、此の指環を加ふことに祝福し給へ、願くは爾の神使は、彼等の生涯、彼等に先だち行かん、蓋爾に萬事に祝福して之を聖にする主なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世々に、「アミン」

輔祭 聯禱を誦すること左の如し、

神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に禱る、聆き納れて憐めよ、 詠隊 主憐めよ、(三次)

又我が天皇、及ば国を司る者の為に禱る、

又教会を司る尊貴なる府主教（(某)）の為に禱る、

又神の僕婢（某）及び（某）、互に聘定せらるる者の為に禱る、

又衆兄弟と衆「ハリストティアニン」の為に禱る、

司祭 蓋爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世々に、

詠隊 「アミン」



戴冠礼儀

聘定者戴冠せんと欲する時は火を点じたる蠟燭を執りて堂の正中に進み、司祭香爐を執りて前行し、第二百二十七聖詠を歌ふ、衆人節毎に左の句を加ふ、

我等の神や、光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す、
凡そ主を畏れて其途を行く者は福なり、

我等の神や、光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す、
爾は己が手の勞に依りて食はん、

我等の神や、光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す、
爾は福なり、爾は善を得たり、

我等の神や、光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す、
爾の妻は、爾の家に在りて、実繁き葡萄の樹の如く、

我等の神や、光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す、
爾の諸子は、爾の席を環ること橄欖の枝の如し、

我等の神や、光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す、
主を畏るる者は此くの如く降福せられん、

我等の神や、光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す、
主はシオンより爾に降福せん、爾在世の諸日、イエルサリムの安寧を視ん、

我等の神や、光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す、
爾は、爾が子の子を見ん、願くは平安イズライリに歸せん、

我等の神や、光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す、

1

スラワ スラーワ スラワチエベ ボジエ ナシユ スラーワチエベ
 слава слава слава тебе боже наш слава тебе

2

我等の 神や、光荣は 爾に 帰し 光荣は爾に 帰す

次ぎて司祭は彼等に教訓して婚配の機密を説き、且如何に夫婦として神に喜ばれ、及び尊く生を度るべきを諭す、陳べ畢りて、司祭新郎に問ひて曰く、

司祭 (某) や、茲に爾の前に見る此の (某) を己の妻とする誠にして自由なる望と堅き決心とを有って居りますか、

新郎 有って居ります、尊神父や、

司祭 他の女に約束は有りませんか、

新郎 約束は有りません、尊神父や、

次ぎて司祭、新婦に向ひて問ふ。

茲に爾の前に見る此の (某) を己の夫とする誠にして自由なる望と堅き決心とを有って居りますか、

新婦 有って居ります、尊神父や、

司祭 他の男に約束は有りませんか、

新婦 約束は有りません、尊神父や、

輔祭 君や、祝讃せよ、

司祭 父と子と聖神の国は崇め讃めらる、今も何時も世世に、

詠隊 「アミン」

【大連禱】

輔祭 我等安和にして主に禱らん、

詠隊 主憐れめよ

上より降る安和云々

全世界の安和云々

此の聖堂云々

教会を司る尊貴なる云々

我が天皇及び云々

今婚配の結合を以て互に合せらるる神の僕婢 (某) (某) の為、及び彼等が救の為に主に禱らん、

此の婚配がガリレヤのカナに於ける如く祝福せらるるが為に主に禱らん、

彼等に貞潔と有益なる腹の果との予へらるるが為に主に禱らん、

彼等が子女を見るを獲て喜ぶが為に主に禱らん、

彼等に子孫多き樂ときずなき生度との賜はるるが為に主に禱らん、

彼等及び我等に凡そ救に切要なる冀願の成就を賜はるるが為に主に禱らん、

彼等及び我等が諸の憂愁と忿怒云々

神や爾の恩寵を以て云々

至聖至潔にして至りて讚美たる云々

詠隊 主爾に

司祭 蓋凡そ光榮尊貴伏拝云々

詠隊 「アミン」

輔祭 主に禱らん、

詠隊 主憐れめよ、

主 あわれめよ 主 あわれめよ 主なんじに アミン

【ルーマニア語 大連祷】

1 2,7
 ア ミン 主 あわれめよ 主 あわれめよ
 A min Doamne mi lu e - ste Doamne mi lu e - ste
 ドア・ムネ ル エ - シュテ

3,8 4,9 5,8
 主 あわれめよ 主 あわれめよ 主 あわれめよ
 ドア・ムネ ル エ - シュテ ドア・ムネ ル エ - シュテ ドア・ムネ ル エ - シュテ
 Doamne mi lu e - ste Doamne mi lu e - ste Doamne mi lu e - ste

6,9
 主 あわれめよ 主 なんじに ア ミン
 ドア・ムネ ル エ - シュテ ツィエド ア - - ムネ
 Doamne mi lu e - ste Tie doam - - ne

司祭高声を以て左の祝文を誦す、

至浄なる神、萬物の造成主、人を愛するに因りて、元祖アダムの脅骨を化して女と為し、彼等に祝福して、生めよ、殖えよ、地を幸れよと曰ひ、彼等二人を配偶に依りて一の者と顕し。蓋是の故に、人は其父母を離れ其妻に着きて、二の者一体とならんと曰ひ、又神の配偶せし者は人分つ可からずと曰ひ、爾の僕アウラアムに祝福し、及びサツラの胎を開きて多民の父となし、イサアクをレウェカに賜ひて其産に祝福し、イヤコフをラヒリに合せて彼より十二の列祖を出だし、イオシフとアセネファとを配偶し、彼等に生産の果としてエウレムとマナシヤとを賜ひ、ザハリヤとエリサウェタとを容れて、其の産として前駆を顕し、イエッセイの根より、肉体に藉りて永貞童女を生ぜしめ、彼より人体を取りて人間の救の為に生れ給ひ、言ひ難き恩恵と大なる仁慈とに由りて、ガリレヤのカナに來りて、彼處の婚配に祝福し、此を以て、法に循ふ婚姻と之に由る生産との爾の旨なるを示しし主や、爾親ら至聖なる主宰や、我等爾が諸僕の禱を納れて、彼處に於けるが如く、茲にも爾の見えざる降臨を以て來りて、此の婚配に祝福し、爾の僕婢（某）と（某）とに、平安の度生、長寿、貞潔、互の愛と和合、命永き裔、子女に於ける恩寵、凋まざる光榮の冠を予へ給へ、彼等に子の子を見るを獲せしめ、彼等の牀を譏を受けざるに守り、彼等に天の露と地の腴とを賜ひ、彼等の家を、麦と酒と油と凡の賜に充てて、之ら需むる者にも與へしめ、彼等と共に在る者にも、凡そ救に切要なる冀願を成就せしめ給へ、蓋爾は慈憐と宏恩と仁愛との神なり、我等光榮を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに獻ず、今も何時も世世に、

詠隊 「アミン」

輔祭 主に禱らん、

詠隊 主憐めよ。

司祭高声を以て左の祝文を誦す、

崇め讃めらるる哉爾主我等の神、秘密にして潔浄なる婚配の聖なる執行者、及び肉体の婚配のノ法律者、不朽の守護者、世上の事の善なる摂理者や、爾主宰や、始に人を造りて、之を造物の王と立と、及び人獨地上に居るは善からず、我彼の為に彼に適へる扶助者を造らんと曰ひ、乃彼が脅骨の一を取りて女を造り、アダムの之を見て、是は乃我が骨の骨、我が肉の肉、此は女と名づけられん、男より取りたる者なればなり、是の故に人は其父母を離れ、其妻に着きて、二の者一体とならんと曰ひ、爾又神の配偶せし者は人分つ可からずと曰ひし主や、爾主宰我等の神や、親ら今も、爾が天の恩寵を此の爾の僕婢（某）と（某）とに遣して、此の爾の婢に、萬事に於て夫に服し、此の爾の僕に、妻の首とならしめて、彼等に爾の旨に適ひて世を度らしめ給へ、主我等の神や、アウラアムとサツラに祝福せしが如く、彼等に祝福し給へ、主我等の神や、イサアクとレウェカに祝福せしが如く、彼等に祝福し給へ、主我等の神や、イヤコフと悉くの列祖に祝福せしが如く、彼等に祝福し給へ、主我等の神や、イオシフとアセネファに祝福せしが如く、彼等に祝福し給へ、主我等の神や、モイセイとセプフォラに祝福せしが如く、彼等に祝福し給へ、主我等の神や、イオアキムとアンナに祝福せしが如く、彼等に祝福し給へ、主我等の神や、ザハリヤとエリサウェタに祝福せしが如く、彼等に祝福し給へ、主我等の神や、ノイを方舟に護りしが如く、彼等を護り給へ、主我等の神や、イオナを鯨の腹に護りしが如く、彼等を護り給へ、主我等の神や、天より露を遣して聖なる三人の少者を火より護りしが如く、彼等を護り給へ、願くは福たるエレナが尊貴なる十字架を發見せし時に獲たる彼の喜は彼等に至らん、主我等の神や、エノフとシムとイリヤ

とを記憶せしが如く、彼等を記憶し給へ、主我等の神や、爾の聖なる四十人の致命者を記憶して此に天より栄冠を遣ししが如く、彼等を記憶し給へ、神や、彼等を養育せし父母をも記憶し給へ、蓋父母の禱は家の基を固うす、主我等の神や、此の慶賀に集りたる爾の僕婢、新婚者の友を記憶し給へ、主我等の神や、爾の僕（某）と爾の婢（某）とを記憶して彼等に福を降し、彼等に腹の果、善良の諸子、霊体の同意を予へ給へ、彼等をリワンの栢香木の如く、枝蕃き葡萄樹の如く高うし給へ、彼等に穂の豊なるを予へて悉くの需に足らしめ、凡の善にして爾を喜ばしむる行に富ましめ給へ、願くは彼等は、其子の子が其席を環ること橄欖の枝の如くなるを見、并に爾の悦ぶ所となりて、光体の天に於けるが如く、爾我等の主に在りて輝かん、光荣、権柄、尊貴、伏拝は、爾と爾の無原の父と生命を施す爾の聖神とに帰す、今も何時も世世に、

詠隊 「アミン」

輔祭 主に禱らん、

詠隊 主憐めよ、

司祭又高声を以て左の祝文を誦す、

聖なる神や、爾は土より人を造り、其脅骨より女を更め造りて、彼に適へる扶助者として彼に配偶せり、蓋爾高大なる神は、此く人の地上に獨居るなからんことを喜び給へり、主宰や、今も親ら爾の聖なる住所より爾の手を伸べて、此の爾の僕（某）と此の爾の婢（某）とを配偶し給へ、蓋爾より妻は夫に配偶せらる、彼等を同心に結合し、彼等を一体に戴冠せしめ、彼等に腹の果、善良の諸子の樂を與へ給へ、蓋権柄及び国と権能と光荣は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、

詠隊 「アミン」

是に於て司祭栄冠を執り、先ず新郎に冠らせて曰く、

神の僕（某）、神の婢（某）に婚配せらる、父と子と聖神の名に因りてなり、

次ぎて新婦に冠らせて曰く、

神の婢（某）、神の僕（某）に婚配せらる、父と子と聖神の名に因りてなり、

次ぎて彼等に三次祝福して曰く、

主我等の神や、彼等に光荣と尊敬とを冠らせ給へ、三次

【ポロキメン、第八の調、】

爾は純金の冠を其首に冠らせり、彼等生命を爾に願ひしに、爾之に賜へり、
 句 爾は彼等に幸福を世世に賜ひ、爾が顔の歡にて彼等を楽ませり、

選択 1

そのかしらに えいかんを こうむらしいのちを
 なのんじに ねがいしにかれらに たまえり
 ねがいしにかれらに たまえり

2回繰り返す

選択 2

なんじは 純金のかんむりを そのかしらに
 こうむらせ かれらは いのちを ねがいしに
 なんじ これに たまえり
 なんじ これに たまえり

聖使徒パウエルがエフェス人に達する書の讀(5:20-33)

兄弟や、我等の主イイススハリストスの名に因りて、凡の事の為に、恒に神、父に感謝し、神を畏るる心を以て互に順ふべし、妻よ、己の夫に順ふこと、主に於けるが如くせよ、蓋夫は妻の首たること、ハリストスが教会の首たるが如し、彼は亦体の救主なり、然らば教会のハリストスに順ふが如く、妻も凡の事に於て夫に順ふべし、夫よ、己の妻を愛すること、ハリストスが教会を愛するが如くせよ、彼は己を此が為に棄てり、是を水の洗を以て、言に由りて、潔めて聖にするが為、是を己の前に光榮なる教會、汚或は皺、或は此くの如き類なき者として立てんが為、即是が聖にしてきずなき者とならんが為なり、夫は己の妻を愛すること、己の身の如くすべし、己の妻を愛する者は己を愛するなり、人未だ己の身を悪む者有らず、乃之を養ひ、之を温むること、主の教会に於けるが如し、蓋我等は彼の体の肢にして、彼の肉よりし、彼り骨よりす、是の故に人は其父母を離れ、其妻に着きて、二の者一体とならん、此の秘密は大なり、我ハリストスと教会とに於て之を言ふ、是くの如く、爾等各其妻を愛すること己の如くすべし、妻は乃其の夫を畏るべし、

【アリルイヤ】

Arieleia

アリルイヤ アリルイヤ アリルイヤ

This musical score is for the hymn 'Arieleia'. It is written in a two-staff system (treble and bass clefs) with a key signature of one flat (B-flat). The melody is primarily in the treble clef, with the bass clef providing a harmonic accompaniment. The lyrics are 'Arieleia Arieleia Arieleia'.

Arieleia No. 2

アリルイヤ アリルイヤ アリルイヤ

Arieleia No. 2

アリルイヤ アリルイヤアリルイヤ

This musical score is for the second version of the hymn 'Arieleia'. It is written in a two-staff system (treble and bass clefs) with a key signature of one flat (B-flat). The melody is primarily in the treble clef, with the bass clef providing a harmonic accompaniment. The lyrics are 'Arieleia Arieleia Arieleia'.

句 主や、爾は我等を保ち、我等を護りて、斯の世より永遠に至らん、

輔祭 睿智、肅みて立て、聖福音經を聴くべし、

司祭 衆人に平安

詠隊 爾の神° にも

司祭 イオアン傳の聖福音經の讀、(2:1-11)



彼の時ガリレヤのカナに婚筵あり、イイススの母も與れり、イイスス及び其門徒も亦婚筵に招かれたり、酒の乏しきに因りてイイススの母之に謂ふ、彼等に酒なし、イイスス對へて曰く、婦や、我と爾と何ぞ與らん、我の時未至らず、其母諸僕に謂ふ、彼が爾等に謂はんとする所を行へ、彼處にイウデヤ人の潔の例に従ひて石の甕六あり、各二三斗を容る、イイスス諸僕に謂ひて曰く、水を以て甕に満てよ、遂に之に満てて幾ど溢る、又彼等に謂ひて曰く、今汲み運びて筵を司る者に與せ、乃之を與せり、筵を司る者、既に酒に変じたる水を嘗めて、(其の何れよりするを知らず、唯水を汲みし諸僕のみ之を知れり、) 新郎を呼びて之に謂ふ、凡の人は先づ旨酒を侷め、酣なるに及びて魯酒を侷む、爾は旨酒を留めて今に至れりと、此くの如く、イイススはガリレヤのカナに於て奇蹟の始を立てて其光栄を顕し、其門徒彼を信ぜり、

詠隊 主や、光栄は爾に帰す

輔祭 我等皆靈を全うして曰はん、我等の思を全うして曰はん、

詠隊 主憐めよ、三次

主全能者、吾が列祖の神や、爾に禱る、聆き納れて憐めよ、

神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に禱る、聆き納れて憐めよ、

又気味の僕婢(某)(某)に、慈憐、生命、平安、壮健、救贖、眷顧を賜はんが為に禱る、

高声 蓋爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光栄を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、

詠隊 「アミン」



輔祭 主に禱らん、

詠隊 主憐めよ、

司祭左の祝文を誦す、

主我等の神、爾が救を施す摂理に於て、ガリレヤのカナに、爾の來臨を以て婚配の尊きを顕しし者や、親ら今、爾の僕婢(某)と(某)と、爾が甘じて互に配偶せしめし者を和平と同心とに保ち、其婚配を

貴き者として彰し、其牀を汚なく守り、其配偶の永くきずなきを致し、彼等に潔き心を以て爾の誠を行ひて、高齢に至らしめ給へ、蓋爾は我等の神、憐れを垂れ救を施す神なり、我等光栄を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに獻ず、今も何時も世世に、

詠隊 「アミン」

輔祭 神や、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐れみ護れよ、

詠隊 主憐めよ、

此の日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを主に求む、

詠隊 主賜へよ、

平安の神使、正しき教導師、吾が霊体の守護者を賜はんことを主に求む、

我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、

我等の霊に善にして益ある事、及び世界に平安を賜はんことを主に求む、

我等の生命の餘日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、

我等の生命の終が「ハリストティアニン」に適ひ疾なく、耻なく、平安なること、及びハリストスの畏るべき審判に於て宜しき対をなすを賜はんことを求む、

信の同一と聖神の体合とを求めて、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

詠隊 主爾に、

司祭高声 主宰や、我等に勇を以て、罪を獲ずして、敢て爾天の神、父をよびて言ふを賜へ、

衆人歌ふ 天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、

爾の国は来たり、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、

我が日用の糧を 今日我等に与え給え、我等に 債ある者を我等免すが如く、我等の

債を免し給え、我等を 誘に導かず、なお我等を凶悪より救い給え、

天にいますわれらのちちや願わくは汝の名は
せいとせられ 汝の国は来たりなんじのむね
は天に行なわるるがごとく地にもおこなわれん

わがにちよのかてをにちわれらにあたえたまえ

われらにおいめある者を我等ゆるすかごとく

我等のおいめをゆるしたまえわれらを

いざないにみちびかずなわれらを

光あくよりすくいたまえ

司祭高声 蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、
 司祭 衆人に平安、
 輔祭 爾等の首を主に屈めよ、

詠隊 「アミン」
 詠隊 爾の神°にも
 詠隊 主爾に

此の時合きん（合ひ合ひの杯）を呈す、司祭之に祝福して左の祝文を誦す、

輔祭 主に禱らん、

神、爾の権能を以て萬物を造り、世界を固め、凡の爾に造られし者の栄冠を飾り、竝に婚配の結合の為に配偶する者に此の合きん（合ひ合ひの杯）を賜ふ主や、属神の祝福を以て之に祝福し給へ、蓋爾父と子と聖神の名は讃揚せられ、爾の国は讃栄せらる、今も何時も世世に、

詠隊 「アミン」

是に於て、司祭合きん（合ひ合ひの杯）を手に執りて、彼等に交々飲ましむること三次、先に新郎、後に新婦、次ぎて司祭彼等の手を領帯の上に合せ持ち、彼等を引きて聖几を環ること三週、受託者後より其の冠を按して随行す、環る時司祭或は衆人左の讃詞を歌ふ、

第五の調

イサイヤ祝句へよ、童貞女は孕みて、子エムヌイル神と人となる者を生めり、其名は東、我等彼を崇めて、童貞女を讃め揚ぐる、

第七の調

聖なる致命者、善く難を受けて栄冠を冠りし者や、我等の霊の憐を被らんことを主に祈り給へ、ハリストス神や、光栄は爾に帰す、爾は使徒の譽、致命者の悦、彼等の教は一体の三者なり、

選択1

イサイヤ喜ぶよ — 受の盆 —

イサイヤよろこぶよ きよき処女はみごもりて子

エマヌイルをうむ かみとひととなるも

のひがしその名は彼れをあがめて処女をほめ

うとら せいなる致命者 はよく難をうけて

チキイ ン

栄冠をこゝむるもの主にいのりたまえわがた

ましいをすくわんことを ハッス かみやなんじ

ス

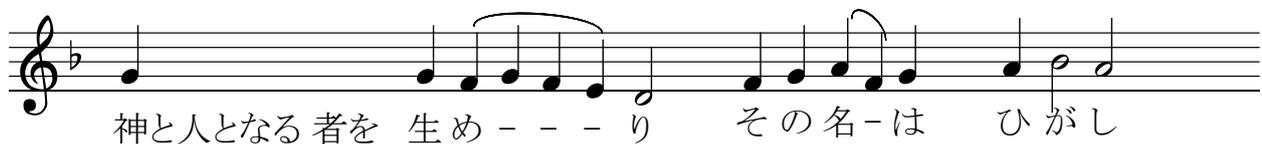
を賛揚す使徒のほまれ致命者のよろこびよ

ン ヨウ シト

それらのおしえは一たいの三者なり

イッ

選択2 単音



ルーマニア語 イサイヤ踊れよ

選択3



I - sa - i - e, dăn - fu - ieş - te, Fe - cioa -
 イ サ イ エ ダン ツ イ シテ フェ スイオア



ra a a - vut în pân - te - ce şi a
 ラ ア アブツァ ウン パン テ フェ シ ア



nas - cut Fiu pre E - ma - nu -
 ナス クツ フィウ プレ エ マ ヌ



il, pre Dum - ne - zeu şi o - mul;
 イル プレ ドム ネ ゼウ シ オ ムル



Ră - să - ri - tul es - te nu - me - le. Lui,
 ラ サ リ トル エ ステ ヌ メ レ ルイ



pre ca - re - le mă - rin du-L, pre
 プレ カ レ レ マ リン ドゥル プレ



Fe - cioa - ra o fe - ri - cim.
 フェ スイオア ラ オ フェ リ チム

司祭新郎の冠を執りて曰く、

新郎や、願くは爾アウラムの如く尊大となり、イサアクの如く福を受け、イアコフの如く殖え、平安に世を渡りて、正しく神の誠を守らんことを、

新婦の冠を執りて曰く、

新婦や、願くは爾も、サッラの如く尊大となり、レウェカの如く楽み、ラヒリの如く殖え、爾が夫の為に楽みて、法の界を守らんことを、蓋神は若く望み給へり、

輔祭 主に禱らん、

詠隊 主憐めよ、

司祭祝文を誦す、

神我等の神、ガリレヤのカナに臨みて彼處の婚配に祝福せし主や、爾の慮に因りて婚配の結合の為に配偶せし、此の爾の僕婢にも祝福し給へ、彼等の出入に福を降し、彼等に多福にして命永きを賜ひ、彼等の栄冠を爾の国に納れ、之を汚なくきずなく謗なくして世世に護り給へ、

詠隊 「アミン」

司祭 衆人に平安、

詠隊 爾の神^oにも

輔祭 爾等の首を主に屈めよ、

詠隊 主爾に

司祭祈りて曰く、

願くは父、子及び聖神、至聖にして一体なる生命を施す三者、唯一の神性の国とは爾等に祝福し、爾等に長き命、善良の諸子、生命と信仰との進みを賜ひ、爾等に凡の地上の福を充て、爾等を亦許約せられし福樂を受くるに堪ふる者と為し給はん、聖なる生神女と諸聖人との祈禱に因りてなり、「アミン」

次ぎて新婚者互に接吻し、衆彼等を賀す、

輔祭 睿智、

詠隊 ヘルウィムより尊くセラフィムに並びなく栄え、操をやぶらずして神ことばを産みし、実の生神女たる爾を崇めほむ

司祭 發放詞

ガリレヤのカナに、己の降臨を以て婚配の尊きを表し、ハリストス、我等の眞の神は、其至浄なる母、光榮にして讚美たる聖使徒、神より戴冠せられたる聖王、巫使徒、コンスタンティン及びエレナ、聖大致命者プロコピイ、及び諸聖人の祈禱に由りて我等を憐み救はん、彼は善にして人を愛する主なればなり。

詠隊 アミン

脱冠祝文

婚配後第八日に之を行ふ、

主我等の神や、爾は恩澤を以て年に冠らし、及び婚配の法に因りて互に配偶する者に此の冠を戴かせ、此を貞潔の賞として彼等に予へ給へり、蓋彼等は潔くして、爾より立定せられし婚配に結合せられたり、爾親ら、斯の冠を脱ぐに於ても、互に配偶せし者に福を降し、彼等の配偶を敗れざる者として守り給へ、彼等が常に爾父と子と聖神の至聖なる名に感謝せんが為なり、今も何時も世世に、「アミン」

司祭 衆人に平安、

主や、爾の僕婢は相望む所を得、ガリレヤのカナの婚配の礼に效ひ、竝に婚配の記号を脱して光榮を爾父と子と聖神とに獻ず、今も何時も世世に、「アミン」

いくとせも

The image displays a musical score for the song "いくとせも" (Ikutosemo). The score is written in a standard staff format with a treble clef and a common time signature (C). The lyrics are written in Japanese characters below the notes. The score is divided into three systems, each with a vocal line and a piano accompaniment line. The first system contains two measures of music. The second system contains two measures of music. The third system contains two measures of music. The lyrics are: "いくとせも" (Ikutosemo) repeated in the first two systems, and "いくとせも" (Ikutosemo) in the third system. The piano accompaniment consists of chords and moving lines in the bass clef.

い く と せ も い く と せ も
い く と せ も い く と せ も
い く と せ も い く と せ も

△, ガ ヤ レ ♪

カスタルスキー

△, ガ ヤ レ ♪ △, ガ ヤ レ — ♪

△, ガ ヤ レ ♪ △, ガ ヤ レ — ♪

This system contains three staves. The top staff is a vocal line in treble clef with a 3/4 time signature. The middle staff is a vocal line in treble clef with a 3/4 time signature. The bottom staff is a piano accompaniment line in bass clef with a 3/4 time signature. The lyrics are written below the vocal staves.

△, — — — ガ ヤ △, ガ ヤ レ — — — ♪

△, — — — ガ ヤ △, ガ ヤ レ — — — ♪

This system contains three staves. The top staff is a vocal line in treble clef with a 3/4 time signature. The middle staff is a vocal line in treble clef with a 3/4 time signature. The bottom staff is a piano accompaniment line in bass clef with a 3/4 time signature. The lyrics are written below the vocal staves.

System 1: Treble and bass staves. Treble clef, 3/4 time signature. Lyrics: ム, がヤ ム, がヤ レタ レタ

System 2: Treble and bass staves. Treble clef. Lyrics: ム, がヤ レ タ ム, レタ レタ ム,

System 3: Treble and bass staves. Treble clef. Lyrics: がヤ レ. タ ム, がヤ レタ ム, がヤ レタ ム, がヤ

System 4: Treble and bass staves. Treble clef. Lyrics: ム, がヤ レ タ

Multi Ani Traiasca

Romanian

multi ani trai- as- ca multi ani trai- as- ca

multi ani trai- as- ca în tru multi ani

La multi ani cu să - nă ta- te

sa vã dea dom- nul tot ce do ri țî

zi le se ni- ne și fe- ri- ci- te

La - multi ani să trãi țî

Vã fi e Via- ta nu- mai lu- mi- na

ca în lu- mi- nã să dai nu i ti

pent ru cre- din- țã și fe- ri- ci- re

La - multi ani sa trãi țî